

虹を追っかけてみる



株式会社
■phone 011-622-7111
■fax 011-622-7125
■Web Site <http://www.kitakobo.com/>

「地域の家を守るために」

昨年末から全道各地（函館・札幌・旭川・室蘭）で、【社団法人 住宅生産団体連合会】
【社団法人 日本住宅協会】両団体のご依頼により「長期優良住宅」に関するセミナー講師を務めさせていただきました。長期優良住宅に関するご説明は、別の機会に致しますが、それぞれの地域で、それぞれの地域に根ざして「家」を作り続けてきたビルダーさんとお目にかかる機会が多く、私にとって実り多い経験でした。

既にご承知のように、公共事業の抑制により北海道の建設事業者は疲弊しきっています。また、本州からパワービルダーと言われる大手のハウスメーカーが恐竜のように北海道の地に上陸してきました。どのビルダーさんにお聞きしても、概ね「10～15年前が一番良く」「その後は右肩下がり、会社を維持するだけの状況」のようです。我々設計事務所も全く同じです。

元々、北海道の建築関連業者は開拓と共に成長してきました。「官」の行う地域の建設事業に対して、その地域に居た面倒見のいい「親分さん」のような人間が取りまとめ役となり、人を集め、公共事業に協力してきたのが、地域工務店のスタートだったはず。それがいつの間にか、地域のボスとなり、「権利意識」ばかりが増長し、地域談合のようなシステムに変化してしまいました。今に至るまで、そのシステムや妙なボス意識に甘んじてきた地域工務店も認識の甘さを責められて然るべきではあります。未だに、意識変革の進まない、腰の重い工務店は退場せざるを得ないでしょう。しかし、地域の「家」を守るという視点から考えた時に、地域において工務店の役割は小さくありません。

セミナーの折、半ば冗談で言っていたのですが、「假法華村（今は函館市でしょうか？）の婆あちゃんちの神棚の修繕さあ、〇〇ホームのリフォームセンター、0120 なんちゃらで、絶対、やってくんないよねえ・・・。」やはり地域の家を守り続けていくのは、地域の大工さん、職人さんであり、彼らの所属するであろう、地域の工務店なのです。

本州のパワービルダーに限らず、上場企業は、「経済原則」「市場原理」で動くのが当然です。これは「悪」では無く当たり前の事。しかしながら、経済原則、市場原理で動くという事は、恐竜が地域を食い散らかし、餌が無くなれば、足跡を消すこともせず去っていくという事。ファミレスやコンビニの開店・閉店のスピード、あるいは「企業買収」という大技を見ても、彼らの論理は明らかです。どんなに美辞麗句や、はやりのエコを標榜しても「地域を守る覚悟」「地縁性」は微塵も感じられません。行儀や礼儀を知らぬ恐竜は無作法に食い散らかす事しか出来ないのです。

地域の工務店は恐竜にとって、小さな小さな蜂のようなもの。蜂が1匹、体に絡み付いてもその存在すら気付かれないかも知れません。しかし、その蜂が100匹、絡みつけば死に至らないまでもさすがにうるさくて、退散する可能性があります。地域の工務店・ビルダーは今こそ連帯し、恐竜に立ち向かう時ではないかと思えます。また、地域を愛する異業種の事業者や我々設計事務所も同じように連携し、100匹を200匹に300匹にと数を増やし、恐竜が恐れをなして、近づいてこないような地域を形づくる。「地域の家を守る」ためには、そんな必要性があるはず。私も地域の為に微力ながらお手伝いをしたいと痛切に感じる、この2～3ヶ月でした。

目次

地域の家を守るために

最近の設計から

特集記事

長期優良住宅認定制度
がスタートします

異業種連携コンソーシアム
emiNet 誕生！！

所員近況報告

日本住宅協会主催
長期優良住宅セミナー

所員の休日

お世話になってる『居酒屋
屋さん』です♪
グランド居酒屋富士

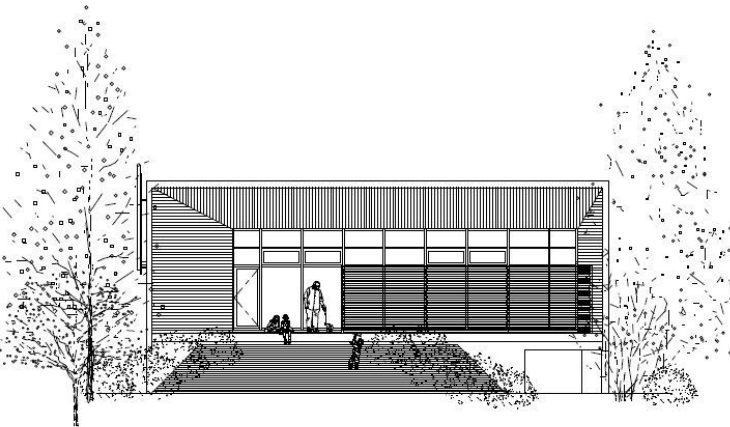
現在、北工房で実施設計中のプロジェクトをご紹介します。今後、紆余曲折があり、デザインも変更されると思いますが、北工房の設計の考え方的一端をご理解いただけましたら幸いです。

富良野市内T〇様邸



富良野の麓郷に程近い林の中にT〇様邸は計画中です。ご夫婦とお子様3人のご家族。廻りは広葉樹が生い茂り、自然環境豊かなところ。自然環境は豊かですが、水道などのインフラ整備が立ち遅れていますので、ここからのスタートです。林の中＝ログハウスのような発想ではなく、当たり前前に普通の家を建てようと思論んでいます。この地は、〇T様にとって自然の豊かな別荘ではなく、当たり前前に生活する暮らしの場だからです。住む者にとって、自然は厳しく対峙すべき物でもあります。無論、豊かな環境を家に取り込む努力は惜しみませんが、住宅デザイン手法として「自然」をキーワードに妙な操作をするのは相応しくないと考えました。それが、この地に住み続ける覚悟をされた〇T様ご家族に対する北工房からの羨望とエールです。

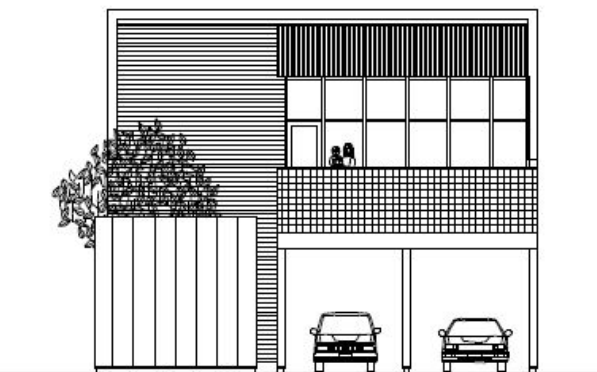
富良野市内UH様邸



富良野市内の自然環境豊かな場所に計画中です。ご夫婦お二人の住まい。まだまだお若いので、これからご家族も増える事でしょう。メイン道路から若干下がり傾斜の土地です。このファサードでは少々基礎高になっていますが、実際に道路からの見通しでは、多分、平屋に見えると思います。この前庭は現在広い芝生になっていますので、緑の芝生の中にシンプルな平屋がある・・・そんなイメージです。

最初にお伺いした時に、ハウスメーカーの作った、いかにも「田園風」「ヨーロッパ風」とでも言えがいいのでしょうか？そんなPLANをお持ちでしたが、あまりにも判りやすく「具体」のイメージを持つ建物は、陳腐な映画セットのようで違和感がありました。生活のスタイルを設計者の枠組みで考え規定してしまうのは設計者の傲慢だと思います。お二人がこの地でこれからの人生を、お二人なりのスタイルで豊かに自由に過ごして頂きたいと北工房は願っています。

札幌市内HT様邸



一昔前の典型的な、分譲住宅地にあったご自宅の建替えです。50代半ばのご夫婦のお住まい。二十数年前に購入された住宅も経年劣化が激しく、また家族構成も変化し、建替えを決意されました。元々のお宅は典型的な建売住宅のスタイルで、敷地の奥の方に建物を配置して、1階に居間と和室があるような間取りでしたが、今回は、その逆にご夫婦の生活のベースを2階に集約し、建物は限界まで前面に配置しました。

私もほぼ同世代ですが、子供の独立した夫婦は「キッチン&ベッド」があればほぼ生活は完了します。基本的にそれらをワンフロアにまとめ、ご夫婦で仲良く生活していただきたいという提案です。

実はこのファサード、まだ悩んでいます。きっと竣工する頃には、違う表情になっていると思います。

長期優良住宅認定制度がスタートします 2009.06.04 から

平成 21 年 6 月 4 日より「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」に基づき「長期優良住宅」の認定制度がスタートします。長期優良住宅としての「基本性能」を持っている家として認定される事により税制面等の優遇処置が受けられます。

「長期優良住宅に求められる基本性能」

長期優良住宅認定のポイント

元来、北海道の家は本州に比べて基本性能が高く、現在一般的に行われている設計レベル程度の家であれば、概ね問題なく長期優良住宅の基本性能を満たす→認定を受けられると考えても間違いありませんが、注意する点が 2 点。

① 確認申請で要求される耐震基準の「1.25 倍」の耐震性能が要求されます。

工学的には正確な言い方ではありませんが、雑駁に建築基準法で想定している地震の 1.25 倍の地震を想定して設計しなければなりません。仮に 100 年スパンで考えた場合、住宅が長持ちするという事は、それだけ「大地震」に遭遇する確率が高くなりますので、その地震で「倒壊」してしまえば「長持ち住宅」とは言えません。100 年に 1 度、発生するかどうかの大地震に遭遇しても、補修して住み続けられる程度の損傷で留まる「強度設計」を住宅に求めています。

② 住宅のカルテのような書面【住宅履歴書】を保管する事が義務付けとなります。

相当規模以上の建物や、官庁の建物は竣工時に様々な完成書類を施工者と建築主の間で取り交わしていましたが、今後は一般住宅規模の建物であっても、それを保管することが、長期優良住宅では求められます。

設計から竣工に至るまで、実は様々な「証拠書類」を関係者間で取り交わすのが、本来の姿なのですが、一般住宅に限っては規模が小さいというだけの理由で、おざなりになっていました。今後は設計図からはじまり不動産取引にかかる書面はもちろん、工事中の記録などを作成保管する事が求められます。

また、分譲マンションでは一般的である「長期修繕計画」のような、その住宅にかかる「管理維持計画」を 30 年分作成しなければなりません。

その他、細々と認定基準はありますが、北海道で普通に作られている家のレベルであれば、問題ない内容ですので省略します。今後、最長「50 年の住宅ローン」も金融機関から登場する予定です。長期優良住宅に認定されれば、このローンも使えます。50 年まるまる一人で返済するとなると気が遠くなりますが、例えば通常の 35 年を 40 年で組んでみたり、住宅ローン減税に関して考えると、当初は 50 年で組んでおき、住宅ローン減税の適用期間が過ぎた時点で、借り換えを行うなどの、選択肢も増えてきます。

戦後日本の住宅政策は、住宅の数の確保に重きをおいていましたが、少子高齢化社会を迎えるにあたり、今後は「質の確保」へとシフトチェンジです。

「住宅履歴書で何が変わるのか」

— 古い建物が値上がりする? —

長期優良住宅の認定制度の認定基準の項目に「住宅履歴書」の保管義務付けがあります。今のところ、フォーマットも定まらず、まずはスタートしましょう!! という程度ですし、国交省の方からお聞きしたところによると「まずは、何でもいから記録を残してください」という主旨のようですが、今後 10 年スパンで考えた時、住宅流通の大きなターニングポイントになる可能性を秘めています。

今まで、中古住宅の売買については「土地代」が大きな比率を占めており、上屋については評価されず、むしろ解体して更地の方が高く売られるというケースがほとんどでした。「土地代」に関して相場はあるものの、年に 1, 2% の上下であり、その価値は概ね一律・平均していましたが、建物は経年により価値がどんどん下がるだけ。建物やそれに付随する設備については税務・会計上、「減価償却」という処理を施し、原則的には「残存価値」は、ひたすら下がり続けるという評価しか与えられませんでした。どんなに大事に使っていた建物も、掃除もメンテもせずに放り出していたような建物も、その評価尺度は原則「築〇〇年」。築後の年数によってのみ評価されてきた訳です。

建物の出所由来が不明である事、途中の改修・改築の経緯や内容が不明である事などを考え合わせれば、無理からぬ事なのですが、「住宅履歴書」が今後整備されれば、すべてが明らかになります。〇年に北工場で設計し、〇〇建設で施工した。竣工時のコンクリートの強さは〇〇で、〇年後に外壁のタイルを〇〇工業が貼り替えた。その時、ついでに 6 畳間の壁を壊して、12 畳にしました・・・これらが、全て明らかになれば、充分に手入れた建物と、何もしないでいた建物の市場での価値評価は異なってくるのが当然です。

今はまだ、「記録する」「保管する」行為の啓蒙に近い状態のスタートですが、既に、この記録自体の「客観性」を担保するため、設計者でもなく、施工者でもなく、持ち主でもなく、第三者によって検査・確認・記録しようという動きも出てきています。

「住宅履歴書」に関しての第一人者、東大の野城先生にお聞きしたところでは、今後、郵便番号を利用して「家」に対して全て ID を割り当てて住宅流通に利用する構想や、更に進めて「家」の「それぞれの部屋」にまで ID を振り分け、部屋ごとのリフォームの状態や、修理の記録まで保存しようという構想も検討中との事です。

私の好きな「Stand by Me」という映画の冒頭シーンに子供が、ペンキ塗りをしているシーンがあります。日本では見慣れない風景ですが、アメリカでは「家」に手を入れれば入れるだけ、その価値を認めるような仕組みになっています。

日本でも子供がペンキ塗りをする、そんな風景が当たり前になる・・・それ程遠くないかもしれません。

まずは、自宅の床掃除からはじめてみましょうか。。。

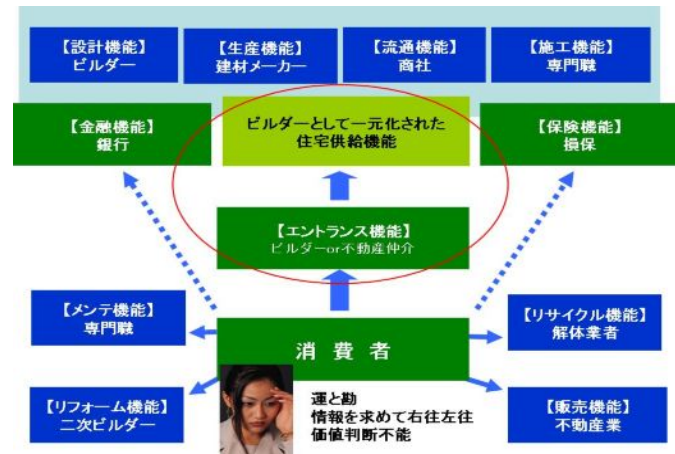
虹を追っかけてみる

地域異業種連携コンソーシアム emiNet 誕生！！

北海道中小企業家同友会のメンバーが中心となり、異業種コンソーシアム「emiNet」が誕生しました。現在、国交省に対しビジネスモデルとして申請中です。読みにくいかもしれませんが、国交省への申請書類の抜粋を掲載します。ちなみに、emiNet コールセンター 011-633-6066 では 北工房の泉 or 栃木が、住まいに関する様々なご相談を無料で承っています。また、構成メンバーの詳細は emiNet ホームページ <http://www.eminet-hokkaido.com/> をご覧ください。

ビルダーと消費者が内包する諸問題

長期にわたって「住宅」を供給維持すべき地域の工務店が、現在の窮状に至った原因のひとつに「住宅供給のシステム」があります。本来「近所の大工さん」としてスタートしたはずの地域工務店は、企業存続の過程で、乏しい資本力にも拘らず、「供給のエントランスを一元化する大手ビルダー」と同じ手法を選択してしまいました。更に、住宅供給システムの成長過程で、ビルダーは、様々な住宅供給機能を自ら束ね、コスト・技術などの情報を曖昧にするブラックボックスとなってしまいました。曖昧な情報をバックボーンとした不良業者が台頭するに至って、消費者もビルダーも不信・不安のスパイラルに陥っています。これは双方にとって致命的な状況であり、消費者は、情報を求めて右往左往するしかありません。いかに先導的な技術をもってしても不信・不安を前提とした家づくりでは住宅の長寿命化は望めません。



「住宅」の長寿命化を俯瞰した時、消費者には正しい情報を提供し、地域ビルダーが住宅に対しきめ細やかなケアを行える環境を整備する必要があります。地域に生き続ける覚悟を持ったビルダーの存在は不可欠です。地域ビルダーは大手ビルダーと同じような「供給のエントランスを一元化したブラックボックスの住宅供給手法」を選択せず、本来の「近所の大工さん」に立ち戻るべきであり、更にそれをサポートする「地域一丸となったシステム」が必要なのです。

また、新たな住宅供給機能として、ユーザーに正しい情報と選択肢を提供し、業務を適正にジャッジメントできる第三者的プレイヤーや、地域ビルダーに不足がちな機能や能力（建築新技術・法体系の理解・IT技術・マーケティングなど）をサポートするプレイヤーの登場も求められています。

住宅の供給維持システムのモデルとして地域異業種コンソーシアムemiNetが誕生しましたブラックボックス化した住宅供給・資材関連業者の連合体の【住宅産業】から地域住民の生活に密着した【生活産業】へパラダイムの変換を図るものです。

生活産業としての新サービスを創出する emiNet 事務局

2006年経済産業省「住生活エージェントのガイドライン」は「住宅に関する情報格差」を埋めるという提言でした。emiNet事務局は、その住生活エージェントとしての機能を担い、同時に登録事業者のスクリーニングや登録事業者相互のマッチングを行い、「生活」「暮らし」をキーワードとしたサービスを随時付加していきます。北海道中小企業家同友会は道内5300社あまりの事業者によって構成されており、将来的に、「環境」「医療・福祉」「流通」など新サービスを提供できる事業者が会員に相当数存在します。長期優良住宅の新築を入口とした様々な総合生活サービスをユーザーに対しワンストップで提供できます。またコールセンターとなるemiNet事務局は問い合わせに対し、「家歴書」をもとに随時対応、さらに情報は「家歴書」へとスタッキングされ、新しい「生活サービス」への展開も可能になります。「家歴書」は単なる「家の記録」から「暮らしの記録」へ、更に「縁結び」から「人の記憶」「街の記憶」へと成長します。

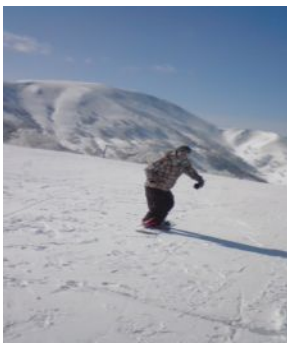
単なる住宅供給事業者同士（ビルダー+ビルダー or ビルダー+資材供給）の連携ではユーザーに対する情報のブラックボックス化は抜本的に解決しません。emiNet事務局が事業者スクリーニングを行い正しい専門的情報を消費者・地域住民に提供、そしてemiNet協力機関が「住宅」の客観的評価を行う事により、ユーザーに全ての情報が開示され、「硬く閉ざされたブラックボックス」が「開かれた透明な箱」へと変化します。

地域ビルダーは業務をサポートグループにアウトソーシングし、企業資産を「家づくり」に集中、またサポートグループから最新の技術・情報入手、ステージアップを図ります。地域に生きる事業者は工務店と手を携え、単なる「家づくり」から「縁づくり」「人づくり」へと地域風土を育みます。



■ **栃木です。(^^)/** ついに、、と言いますか、、やはり、、と、言うべきか、、「と〜によ〜びよ〜」のお見立てを頂戴し、現在食事制限中です。「と〜によ〜先輩」諸氏のお話を聞き限り、まだまだ軽い制限のようですが、「夜明けのジンギスカン」やら「ラーメンライスがデザート」みたいな生活を送ってきた私にとっては、つらい。。。というか、、情けない。娘の弁当作りを卒業したカミさんに、再度現役復帰してもらい基本は毎日、カミさん弁当です。ただねえ、、OLさんのおペントみたいなものを見るたび、悲しい限り。理想体重は70Kg弱のようで、25Kg減が目標値。ぜったい、無理だろお〜(TmT)とは思いつつ、現在4〜5Kgのダイエットに成功しました。そんな生活を送っていますので、お願いだから、、お願いだから、、呑みに誘わないでネ。お願いだから、、誘わないでネ(しつこい!!)。(^^)/**☆カンパ〜イ!**に誘わないでねえ〜TmT

■ **どうも、杉渕です。。** 最近諸事情により、本を読んでいます。遙か昔に赤川次郎(笑)の小説から始まり、ピリーミリアンのなんたらかんたら〜などのノンフィクションものも読んでいましたが、ここ最近読んでいるのは、いわゆる「ビジネス本」関連の書籍で、年中事務所のパソコンの前に座っている自分としては、仕事に対する姿勢や、お客様との関わりなど「ため」になる事ばかりです、、はい。話は変わりますが、今年の冬から息子がスノーボード始めるという事で、約10年振りにボーダーに復帰しました(笑)それにしても、子供って凄いですね。あつという間に滑れるようになって、シーズン終盤にはそこそこに大きなジャンプ台で跳んでいましたからね(汗。自分も息子に「カッコいいお父さん」アピールすべく一緒に跳んでいましたが、何本か跳んでいる内に着地に失敗して・・・く、く、、首と鎖骨が・・・まだまだ息子に追い越される気はないので、来シーズンも「カッコいいお父さん」したいと思います!!!



■ **成田です。**今年に入り、仕事の面では新しいことに挑戦しております。新しいことに挑戦するというのは充実している日々を送っているのかな〜と自己満足しております。プライベートでは杉渕先輩に便乗しスノーボードへ行き久しぶりに冬を満喫しました。ゴールデンウィークまで滑りたいですね。冬山最高!!(笑)ただボード行ったら翌日、筋肉痛で動けなくなるのが辛いです。。。写真は3月中旬にキロロスキー場での一枚です。撮影者はもちろん杉渕先輩です。この日は天気にも恵まれとても気持ちよかったです。

と、、遊びほけていたらなんと成田家に家族がもう一人増えます。10月の初旬には産まれてくる予定です。ボードして遊んでいる場合じゃないです!!お父さんはお仕事がんばります!!

■ **泉です。**3月の初め、急に『どこか遊びに行こう!』と思いつき、マイレージを使って母を誘い一緒に東京に行ってきました。当然思いつきなので、特別スケジュールも立ててなく、しかも着いたら東京は大雨!!!空港で母とミーティングをして思いついたのが、国立西洋美術館でルーヴル美術館展が開催しているということでした。札幌にいても中々美術館に行く事も少ないのですが、母と一緒にゆっくりと作品を眺めながらイイ時間が過ごせました♪♪いつもは混んでいてゆっくり作品を見学する事もできないそうですが、大雨のお陰でゆっくり周る事ができました☆そういえば・・・フランスのルーヴル美術館に行った時は観光客が多く、流れ作業のように見ていたので『モナリザ』しか覚えていません・・・(笑)

■ **こんにちは、栃木明美です。**前号は自己紹介でしたね。今回は近況報告と言う事で・・・(◇^;)仕事の方は事務なので坦々と毎日が過ぎてます。1日が早いです。前回紹介した孫も2歳になりカタコトですが言葉が言えるようになり会話成立です。孫はかわいいと言いますが本当ですね。

あと・・・夫が糖尿病発覚です。とにかくメタボ解消からで、ダイエットの開始です。いままで、夫の食事は本当に手が掛からず、朝は夫が自分で適当に作って食べ、お昼は外食、食事の用意は夜だけでした。それもお肉中心のカロリーたっぷりの食事。おいしいおいしいと食べてくれましたが、その結果メタボ・糖尿です。私が悪いんでしょうね・・・(;ノ;)。子供達のお弁当作りから卒業して何年?今は夫のためにお弁当を作っています。毎日です!。°°(X_X)°°。

「家」に関する悩みやお困りごとは、emiNetコールセンターへ!

emiNetのメンバーには弁護士・税理士・土地家屋調査士・建築士などの専門家はもちろんの事、工務店、リフォーム関連業者まで多彩なメンバーがそろっています。誰に相談しても判断らない、そばに相談できる人がいない・・・そんな方はまずemiNetコールセンターにお電話くださるか、メールでお問い合わせ下さい。コールセンターにおいて、対応すべき専門家をご紹介します。

emiNetコールセンター: **011-633-6066** **ご相談無料**

【受付時間】 月〜土 AM 9:00 ~ PM 6:00 (日曜・祝祭日 休み)

〒060-0001 札幌市中央区北1条西15丁目1-3-409 錦北工房内 emiNetコールセンター事務局

info@eminet-hokkaido.com



株式会社

Sapporo
Architecture Design
Service Sector

TEL:
011-622-7111

FAX:
011-622-7125

E-MAIL:
info@kitakobo.com

北工房 Web サイト

<http://www.kitakobo.com/>

ブログ

「北海道発・建築と格闘中！」

<http://kitakobo.exblog.jp/>

幸せになるための家づくり

from 北海道

<http://blog.smatch.jp/kitakobo/>

■ 経営理念 ■

- 一、「(株)北工房」は設計を通じて「北海道の建築環境」の向上を目指すプロフェッショナルの集団です。
- 一、「(株)北工房」はプロフェッショナルとして「自由な発想と創造力」「確固たる技術とノウハウをクライアントに提供します。
- 一、「(株)北工房」は「社会モラルを尊重」し、全ての業務に「プライドと責任」を持って臨みます。
- 一、「(株)北工房」は仲間と共に、それぞれの「夢」の実現に向かって走り続けます。

(社)日本住宅協会主催 長期優良住宅セミナー 住宅の長寿命化のポイント、長期住宅先導的モデル事業について

2月2日(月)に札幌教育文化会館において、国土交通省が08年度から新規事業としてスタートさせた「超長期住宅先導的モデル事業」を中心に、国が進める住宅の長寿命化の取組み等について、『住宅の長寿命化に関する講習会』を開催いたしました。参加人数は約90名ほどで、建築指導センターの方や北海道建築指導課の方・・・ハウズビルダー、設計事務所の方々・・・多くの業種の方々に参加頂き、この講習会の注目度の高さが実感されました。講師は弊社：栃木渡です。

11月28日には「長期優良住宅普及促進法」が参議院で可決され、今後「超長期住宅先導的モデル事業」などの取組はより一層加速されることが予想されます。

また、北海道内5箇所です「出前セミナー」も行いました。ほとんどがビルダーさん側からのご要望で開催されましたので、社長様以下社員の方々も熱心に話を聞いて下さり、関心の高さをますます実感致しました。



講習会の様子

☆ 所員の休日 ☆

2月1日(日)に「朝里川温泉スキー場」に弊社：杉淵・成田・泉でスノーボードに行ってきました♪

杉淵・成田のコンビは1月にも行って、かなり楽しかったらしく、その話を聞いているうちに私も行ってみようかなって思いました、5年ぶりにウェアを引っ張りだしました(笑)5年ぶりでしたが、かなり楽しく滑ることができました。もちろん2人も大満足!!な1日でした♪



朝里川温泉スキー場にて

お世話になってる『居酒屋さん』です♪

今回ご紹介するお店は、南5西4 富士会館ビル2階・4階～6階にある【グランド居酒屋富士すすきの店】tel(011)511-7131です。

創業43年の歴史あるお店なので皆さんも1度や2度は訪れたことがあるのではないのでしょうか?

弊社栃木がここのお店と懇意なもので、昨年の忘年会で使わせてもらいました。



店長さんにも大変良くして頂きまして、ありがとうございました♪お陰さまでお腹一杯、ワッハハ～!と年忘れの宴にふさわしく盛り上がる事ができました♪中でも、『ゴボウのスパイシー揚げ』!!ビールによくあいました♪ごちそうさまでした(^_^)

皆さんもぜひ1度行って見て下さい☆